

# 脱炭素化と国土強靱化に重点を置き、 持続可能な循環型社会の構築に向けて、 より一層の貢献を果たしてまいります

ご安全に。この1年はステークホルダーの皆さまに直接お会いすることが殆どできませんでしたが、まずはこの場をお借りして、日頃のご愛顧に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの蔓延は、世界各国の政治経済だけでなく、人々の価値観や働き方を大きく変化させました。日本国内でも、withコロナ、afterコロナの議論がさまざまな視点からなされ、まだしばらくは有事の混乱状態が続くそうです。そのような中、感染拡大防止・感染者治療に日々尽力されている医療従事者・関係者の皆さまに心から感謝と敬意を表しますと共に、飲食業・観光業を始め、深刻な打撃を受けている業界が一日も早く定常モードに戻られることを祈っております。

当社グループにおいても、コロナウイルスの感染拡大防止には、細心の注意を払って取り組んでまいりまし

た。建設現場においては、夏期の熱中症予防対策を講じながらのマスク着用など、判断が難しい局面も多く、各現場の実態を見ながら最適な対策を模索・実行いたしました。また、オフィス勤務者については、在宅勤務を可能にする業務システムの導入・基盤整備を迅速に行い、足元の緊急事態宣言下における出勤率は約3割程度に抑えることができております。

エンジニアリング業は現場の安全が第一であり、従来から災害ゼロに向けてグループをあげて取り組んできておりますが、今回のパンデミックを通じて、社員及びご家族の健康が持続可能な経営の大前提であることを痛感しております。昨年度、当社は初めて「健康経営優良法人」の認定をいただきましたが、社員が心身共に健康で活き活きと活躍できるように、これからも安全衛生活動により一層の力を入れてまいります。

2020年度は、新型コロナウイルスへの対応以外でも、世の中が大きく動いた年になりました。地球環境問題に対するグローバルな動きの中、昨年10月末には菅義偉首相が「脱炭素宣言」を表明、二酸化炭素の排出量を2050年には実質ゼロにするという目標を打ち出しました。さらに、本年4月22日には、パリ協定における日本の目標値（2030年に2013年比26%減を46%減に引き上げること）が公表されました。これらの目標を達成するためには、エンジニアリング会社としても再生可能エネルギーの社会実装や、CCUS等新しい技術の開発にこれまで以上の貢献が求められています。

当社は今年、中期経営計画「2025目標と戦略」を策定いたしました。我々の目指す方向性（ビジョン）は右に示す通りですが、これから先の10年間、20年間を考えたときに、社会ニーズが緊急かつ非常に高く、当社の持つ技術や経験が活かせるテーマである「脱炭素化」と「国土強靱化」に重点を置く方針を掲げました。

洋上風力発電やバイオマス発電、地熱発電、ごみ発電といった再生可能エネルギー施設の建設や、鉄という素材を活かした災害に強いレジリエントな街づくりに、EPCのみならず、O&Mや部材供給といったサービス型事業も強化しながら、当社グループ一丸となって取り組んでまいります。

また、鉄鋼業のカーボンニュートラルに関しても、当社が果たすべき役割は非常に大きいと考えております。国内外で培ってきた製鉄プラントの設備技術・建設実績をもとに、難易

代表取締役社長

石倭行人

Representative Director  
and President

Yukito Ishiwa



度の極めて高い水素還元製鉄やカーボンオフセット対策などに、日本製鉄と共に挑戦する所存です。

これらの戦略を推進する上で欠かせないのが、デジタル・トランスフォーメーション(DX)です。当社は2年前にデジタル・トランスフォーメーションセンターを立ち上げ、社員のデジタルリテラシーの向上や業務全般のDX化を加速しています。既に4D-CAD/BIMの適用拡大、遠隔地からのプラント操業支援(可視化・異常検知等)システムの構築等に加え、AIを活用した設計業務そのものの革新も始まっており、会社全体においてDXが進行中です。DXは、生産性向上を通じて社員の働き方改革を実現するだけでなく、当社をよりイノベティブな企業に変革する取り組みであり、今後も研鑽を重ねてまいります。

●  
毎年、サステナビリティ・レポートでは、当社グループの前年度の主な活動をSDGsの枠組みで整理してお伝えしていますが、今年は国連が掲げるSDGsの17のゴールの中で、当社が事業活動を通じて特に貢献する目標を社内で議論し、6つ特定して明示しました。また、特集記事として、直近に竣工を迎えたプロジェクトの中から、①下水汚泥からエネルギーを取り出すジェイコンビ®、②災害に強く環境にも配慮したマルチテナント型物流施設、③日本の漁業を陰で支える浮魚礁の3つのプロジェクトを紹介しています。コロナウイルスが猛威を振るう中、お客さまの課題解決と持続可能な循環型社会の実現に向けて、チームで取り組んだプロジェクトストーリーです。ぜひご覧いただき、

忌憚なきご意見をお寄せいただけますと幸いです。

また、CSRに関しては、安全衛生、品質、コンプライアンス、環境、調達、人財、社会貢献の7つの基本方針に沿って実施しているさまざまな活動を記載しています。今年には各基本方針に該当するSDGsアイコンも掲載いたしました。また、昨年いただいた第三者意見を踏まえ、KPIの設定についても社内で議論を重ね、わずかではありますが、掲載可能な項目を追加いたしました。地道に着実にPDCAを回すことで、皆さまから信頼される企業であり続けたいと考えています。

これからも温かいご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 日鉄エンジニアリンググループのCSR

### 企業理念

### Our Mission

一歩先をいく技術とアイデアで、お客様に最適なエンジニアリングソリューションを提供し、グローバルな社会・産業の発展に貢献します。

### 価値規準

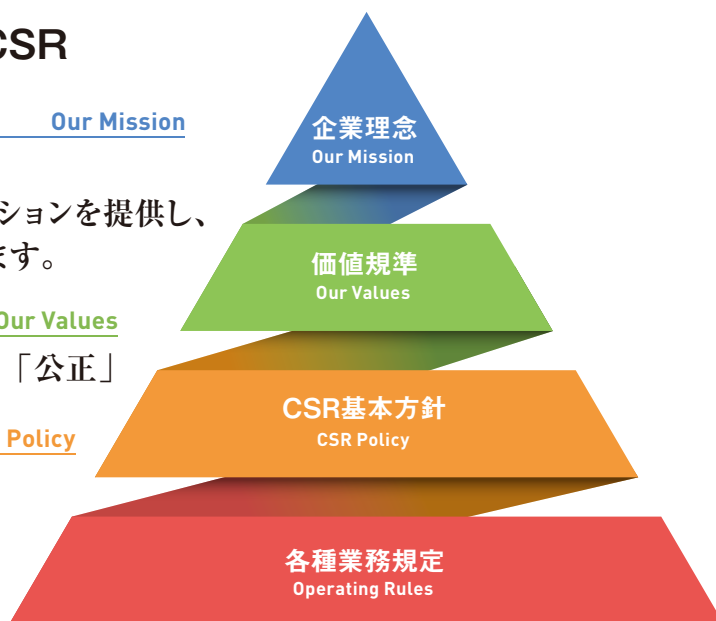
### Our Values

【大切にすべき価値】「現場」「技術」「人財」「公正」

### CSR基本方針

### CSR Policy

- 安全衛生基本方針 ● 品質基本方針
- コンプライアンス基本方針 ● 環境基本方針
- 調達基本方針 ● 人財基本方針 ● 社会貢献基本方針



## 「2025目標と戦略」のビジョン

### 1 「社会・顧客課題への最適なソリューションを提供」

社会・顧客の課題に真摯に向き合い、多様な事業で培った技術・ノウハウを活かしてEPCに留まらず、サービスや部材供給も含め最適なソリューションを生み出し、提供する。

### 2 「脱炭素化社会の実現、国土強靱化社会の実現へ貢献」

特に、脱炭素化社会の実現と災害に強いレジリエントな街づくりのための技術、サービスの社会実装により一層貢献していく。

### 3 「生産性向上と業務革新の継続」

上記を力強く進めるため、一人ひとりが志を磨き、生産性の向上と業務の革新に継続して取り組む。

エンジニアリング業務全体をデジタルデータ化し有効活用することで、お客様の多様な課題に対して最適なソリューションを提供することを目指します。